

## 第4章 現状と課題

### 1) 現状

#### (1) 地域の概要

本市は、総面積19.18km<sup>2</sup>の東西に長い形状であり、うち65%は平たん部で市街地、工場用地、農地が広がっています。鉄道などの交通が発達していることから、市民の生活圏、行動圏は広がりを見せており、京都市、大阪市方面との結びつきの強い都市となっています。

#### (2) ごみ処理の実態

ごみの排出量実績と国及び京都府の減量等の目標を比較すると以下のとおりです。

— ごみ排出量の実績と国・京都府の目標量 —

	単位	長岡京市			国	京都府	
		H17 (実績)	H19 (実績)	H22 (実績)	H27 (目標値)	H17 (目標)	H22 (目標)
排出量	t/年	27,906	27,633	24,664	25,828	27,959	26,542
		(100.0%)	(99.0%)	(88.3%)	(95.0%)	(102.8%)	(97.6%)
		—	(100.0%)	(89.2%)	(93.4%)	—	—
再生 利用量	t/年	4,601	4,424	3,809	6,155	—	—
		[16.5%]	[15.8%]	[15.4%]	[25.0%]	—	—
最終 処分量	t/年	3,820	4,057	3,491	3,164	—	—
		(100.0%)	(106.2%)	(91.3%)	(78%)	—	—

(注) 排出量及び再生利用量は、集団回収、拠点回収を含む。  
再生利用量の[ ]割合表示は、排出量に対する再生利用量の割合。  
網掛け部は、目標値を規定する数値。

#### (3) 家庭系ごみの排出実態

収集ごみの1人1日排出量は、減少傾向を示しており、平成22年度では563.5g/人・日となり、京都府(京都市除く)平均579g/人・日[H21(集団回収除く)]と比べると、若干少なくなっています。

#### (4) 事業系一般廃棄物の処理実態

直接搬入ごみは、ほぼ横ばい傾向を示しており、平成12年度は15.9t/日、平成17年度は16.8t/日、平成22年度は15.9t/日となっています。

## (5) 資源ごみの回収状況

資源ごみの回収状況と全国の回収状況を比較すると以下のとおりです。ペットボトル、古紙類が全国平均と比較して収集原単位が少なくなっています。

### — 資源ごみの回収状況（全国との比較）（平成20年度） —

	全国の状況（H20年度）				長岡京市の実績（H20年度）	
	分別収集量（t）	対象人口（万人）	収集原単位（g/人・日）	人口カバー率	市実績（t・年）	（g/人・日）
スチール缶	249,294	12,566	5.02	98.3%	—	—
アルミ缶	124,003	12,585	2.70	98.4%	—	—
缶類計	373,297	—	4.06	—	173.39	5.99
無色ガラス	327,230	12,631	7.10	98.8%	—	—
茶色ガラス	286,627	12,626	6.22	98.8%	—	—
その他ガラス	181,060	12,545	3.95	98.1%	—	—
ビン類計	794,917	—	5.76	—	507.06	17.51
紙製容器包装	83,804	4,418	5.20	34.6%	—	—
ペットボトル	283,866	12,714	12.58	99.4%	134.10	4.63
その他プラスチック類	672,065	10,178	18.09	79.6%	531.08	18.34
内白色トレイ	3,470	4,466	0.21	34.9%	5.13	0.18
紙パック	15,070	11,101	0.4	86.8%	19.83	0.68
ダンボール	553,615	11,162	13.59	87.3%	241.18	8.33
新聞・雑誌	—	—	—	—	2411.17	83.28
合計（紙類除く）	2,776,634	—	67.6	—	1,606.64	55.49

## (6) アンケート調査

今回本計画に係るアンケート調査は実施していませんが、環境基本計画見直しに係るアンケート調査の中で廃棄物に関する調査内容を抜粋します。

### — 市民アンケート調査 —

（市民：有効回答者数 952 人）

	やるつもりはない	やりたいが、やっていない	以前はやっていた	時々やっている	やっている	無回答
過剰包装の商品購入は避け、エコバッグを持ち歩く	17 (1.8%)	70 (7.4%)	11 (1.2%)	320 (33.6%)	521 (54.7%)	13 (1.4%)
リサイクル製品・詰替え使用可能な製品等を優先して購入・利用する	16 (1.7%)	71 (7.1%)	12 (1.3%)	332 (34.9%)	505 (53.0%)	16 (1.7%)
カン・ビンやトレイ、紙パック、廃食用油などをリサイクル回収に出す	9 (0.9%)	28 (2.9%)	11 (1.2%)	124 (13.0%)	766 (80.5%)	14 (1.5%)
新聞紙・雑誌などを古紙回収に出す	11 (1.2%)	29 (3.0%)	33 (3.5%)	79 (8.3%)	789 (82.9%)	11 (1.2%)
不要家具・家電品などをリサイクル業者に出す	22 (2.3%)	137 (14.4%)	36 (3.8%)	230 (24.2%)	497 (52.2%)	30 (3.2%)
コンポスト等でごみを堆肥化する	285 (29.9%)	526 (55.3%)	37 (3.9%)	38 (4.0%)	46 (4.8%)	20 (2.1%)

マイバッグ持参率は「時々やっている」も含めると9割弱が実践しています。また、「リサイクル製品や詰替え製品の購入や古紙等をリサイクル業者に出す」も高い割合を示しており、市民の発生抑制の意識や再資源化に対する意識の高さがうかがえます。「生ごみを堆肥化する」については、やりたいがやっていないが約半数を占めています。

これは、関心があるが堆肥化の方法がわからない、堆肥化しても堆肥の処理に困る等から躊躇している市民が多いと推測され、今後、堆肥化の方法等の広報や堆肥の処理ルート確立が必要と思われます、

— 事業所アンケート —

(事業所：有効回答者数39か所)

	すでに実施している	現在は実施していないが、今後実施したい	今後実施するつもりはない	事業との関わりがない	無回答
ミスコピーの裏面を利用	35 (89.7%)	1 (2.6%)	2 (5.1%)		1 (2.6%)
コピー用紙や封筒への再生紙の利用	36 (92.3%)	2 (5.1%)			1 (2.6%)
社内便などへの使用済み封筒の再利用	38 (97.4%)				1 (2.6%)
詰替え可能な製品の利用勧奨や、使い捨て製品の使用や購入	30 (76.9%)	3 (7.7%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	4 (10.3%)
製品の修理による長期使用	34 (87.2%)	2 (5.1%)		1 (2.6%)	2 (5.1%)
エコマーク製品の優先的な購入	22 (56.4%)	12 (30.8%)			5 (12.8%)
紙(段ボールやOA用紙等)の分別収集・再資源化	34 (87.2%)	3 (7.7%)			2 (5.1%)
カン・ビン等の分別収集・再資源化	34 (87.2%)	2 (5.1%)	1 (2.6%)		2 (5.1%)

すべての項目において「すでに実施している」が高率を占めているが、今後、まだ実施していない事業所に対し、資源の有効利用、再資源化に向けた取り組みを早期に実施するよう広報等で啓発していく必要があります。

(7) 施設の状況

a. ごみ処理施設

平成7年4月稼働の1・2号炉は平成22年~23年度に「ごみ処理施設長寿命化第Ⅰ期工事」を行い、作業環境、作業効率などを大幅に改善しました。また、3号炉では熱回収(発電)が可能であることから、処理は3号炉を中心に運転しています。

— ごみ処理施設の状況 —

	概 要
平成22年度処理量	38,665 t
平成22年度稼働日数	1号炉：168日 2号炉：110日 3号炉：304日
平成22年度稼働日当り処理量	1号炉：62 t/日 2号炉：65 t/日 3号炉：69 t/日

## b.リサイクルプラザ

粗大ごみ及び資源ごみのうち、カン類、ビン類については設備の処理能力に問題はありません。ペットボトルの処理設備については、既存設備では処理能力を上回る搬入があるため、平成23年4月にプラプラザに処理能力の大きいペットボトル処理施設を新設し、供用開始しています。

### — リサイクルプラザの状況 —

	概 要	
	粗大ごみ処理設備	資源ごみ処理施設
平成22年度処理量	2,234 t 粗大ごみ : 1,063 t その他不燃物 : 1,171 t	カン類 : 383 t ビン類 : 971 t ペットボトル : 245 t
平成22年度稼働日数	240日	
平成22年度稼働日当り処理量	粗大ごみ+その他不燃物 9,309 kg	カン類処理設備 : 1,596 kg ビン類処理設備 : 4,046 kg ペットボトル処理設備 : 1,021 kg

## c.プラプラザ

プラプラザは、比較的新しい施設で、老朽化も見られず能力面でも問題なく稼働しています。

### — プラプラザの状況 —

	概 要
平成22年度処理量	754 t
平成22年度稼働日数	228日
平成22年度稼働日当り処理量	3,310 kg

## d.最終処分場

最終処分は勝竜寺埋立地での処分と大阪湾広域臨海環境整備センターへの処分委託により行っています。平成19年度より焼却残渣のほぼ全量を大阪湾広域臨海環境整備センターへ搬入していますが、勝竜寺埋立地の残余容量については逼迫した状況に変わりはありません。

### — 最終処分場の状況（勝竜寺埋立地） —

項 目	内 容
埋立容量（覆土含む）	322,992.7 m <sup>3</sup>
残余容量	71,929.0 m <sup>3</sup>
埋立開始年	1981年

## 2) 当初計画の減量化・資源化目標の達成状況

### (1) 達成状況

#### a. 減量化目標

家庭系ごみについては、平成22年度の1人1日当たり排出量は563gで、基準年度の平成17年度に対して約13%減であり、平成33年度目標値をすでに達成しています。

事業系ごみについては、平成22年度の1日当たり搬入量は15.9tで、基準年度の平成17年度に対して6%減の状況です。

#### b. 資源化目標

資源化目標は、平成22年度は15.4%であり、基準年度の平成17年度の16.5%を下回る結果となっています。

## 3) 課題

### (1) 排出抑制

#### a. ごみ量の削減

家庭系ごみは、平成22年度で当初の削減目標値を達成していますが、今後安定的にさらに減量を進めていくため「ごみ減量のしおり」の内容を充実し、市民により解りやすい情報の提供を図るとともに、以下の事項を重点的に検討することが必要です。

- ごみ袋を透明化する等ごみの見える化の検討
- 資源ごみ（古紙・古繊維等）集団回収のPRの推進
- 生ごみ分別リサイクルシステムの検討

アンケート結果からは、詰替え商品の購入・マイバッグ持参率が「やっている」「時々やっている」で約89%を占め、市民の発生抑制の意識の高まりが見受けられます。しかし、新聞雑誌を古紙回収に出すも「やっている」「時々やっている」を合わせると約93%と高率を示していますが、メディアの多様化の一因もあると考えられますが、回収量は年々減少していることから雑古紙等の回収についての啓発がさらに必要と思われれます。

事業系ごみは、微増微減を繰り返しながら平成22年度では基準年度（H17年度）の6%削減です。今後目標値を達成するために下記の課題を重点的に検討することが必要です。

- 小規模事業所の資源ごみ（古紙等）の分別システムの構築
- 生ごみリサイクルシステムの構築
- ごみの見える化の推進
- ごみ減量推進店の見直しを行う

また、本市組成分析の結果から、特に紙類・木類の内容の分析を今後行い、発生抑制、適正分別に向けた検討を行っていく必要があります。

## **b. 環境教育の充実**

ごみの減量・適正排出を習慣づけるには、幼児期からの環境学習を継続的に行うことが必要です。また、自治会等へ働きかけて出前講座の実施など地域へ浸透させて行くことも必要です。

## **c. 有料化の検討**

国の基本方針でも市町村の役割として経済的インセンティブを活用した一般廃棄物の排出抑制・再生利用の推進・負担の公平化の推進がうたわれています。

今後は、有料化のメリット、デメリットを勘案し、市民の合意形成を踏まえた有料化の検討が必要です。

## **(2) 収集運搬**

### **a. 資源ごみの収集体制の検討**

小型家電の回収、容器包装プラスチック類の範囲拡大等動向を踏まえ、必要に応じ体制整備の検討に努めることが求められます。

### **b. 分別区分の調整**

市民の負担軽減等を考慮しながら、乙訓環境衛生組合の処理施設にあった分別区分にすることを検討が求められています。

### **c. 福祉収集体制の検討**

高齢者、障がい者の方々の中には、指定日にごみをステーションまで運べない方もおられます。そのような方々のため、個別収集等の実施の検討が求められています。

## **(3) 中間処理**

### **a. 民間施設の活用**

古紙等資源ごみ・食品残渣等資源化可能な一般廃棄物について、焼却から再資源化への変換が求められています。

## **(4) 最終処分**

大阪湾広域臨海環境整備センターへの処分委託の次期計画は未定ですが、現計画が延長され、受入期間は平成39年度まで継続して可能となりました。しかし、第2期計画の受入総量の変更はないため、平成24年度以降5年単位で受入量が減少し、残量は勝竜寺埋立地への搬入となります。現在のところ、見込みでは約20年で勝竜寺埋立地は終了となります。今後、最終処分量の更なる削減方法、用地選定等将来的な最終処分地の確保に向けた検討が必要となります。